

令和元年度 埼玉県高等学校サッカー新人大会総評

報告者：高体連技術委員 川口青陵高校 山田純輝

1. 大会概要

期間：2020年2月8日～2月16日

会場：川口市青木町公園総合運動場・各高校人工芝グラウンド

方式：昨年度全国高校サッカー選手権大会埼玉県予選ベスト8校

+新人大会各支部予選を勝ち上がった8校の計16校によるトーナメント

結果：優勝 昌平

準優勝 西武台

ベスト4 武蔵越生・正智深谷

ベスト8 西武文理・埼玉栄・成徳深谷・聖望学園

2. ベスト4チーム分析

○昌平

1-4-2-3-1の布陣。自陣からチーム全体でボールを丁寧に動かしながらビルドアップし、コンビネーションや個人技を活かして攻撃するスタイル。CBとボランチでパス交換している間にSBが高い位置を取って幅と厚みを作る。FW⑪小見の背後への動き出しが鋭く効果的であり、中盤にスペースを作り出すことができる。そのスペースでトップ下⑩須藤と両SH⑨篠田、⑬井野がタイミング良くボールを引き出し、ショートコンビネーションで中央突破やサイド攻撃を展開する。相手守備陣は中央に人数をかけることになり、空いたスペースにSBがタイミング良くオーバーラップすることで攻撃に厚みが増していた。クロスボールの精度が上がってくるとより脅威となりそうである。守備は、攻撃時の距離感が良いため、ボールを失った瞬間に素早い切り替えとプレスでボールを奪い返し、攻撃につなげた。コンパクトでコレクティブな守備ができているため、相手陣地で奪う頻度が多い。中でもボランチ⑥柴の守備時のポジショニングと予測が良く、相手の攻撃の芽を摘んでいた。攻撃陣のメンバーに大きな入れ替えがないため実力、経験は申し分ない。大きく顔ぶれが変わったGKとDF4枚の守備陣の成長が今年の結果の鍵を握りそうである。

○西武台

1-3-4-3の布陣。これまでは4バックで戦うことが多かったが、新チームは3バックで臨んだ。3トップが相手DF4枚の間に立つことで相手SBを食いつかせてサイドにスペースを作り、両WB②栗田③岡崎が入り込む形でサイド攻撃を狙う。CBはロングボールの精度が高く、FW⑨大野田は常に背後の動き出しを狙っていた。そのことで生まれるスペースにFWが落ちてくさびが入り2列目が関わる厚みのある攻撃も見られ、攻撃パターンは多彩であった。FW⑩村田はテクニックやシュートセンスに長けており、準決勝ではオーバーヘッドでゴールを決めた。セットプレーのバリエーションも豊富で多くの得点を奪った。守備時は、両WBが下がり1-5-2-3の布陣でコンパクトな3ラインを形成する。自陣バイタルエリア付近では、DF5枚とボランチ2枚で強固な

ブロックを形成する。CBの3枚は対人、ヘディング共に強く、距離感良く中央を守る。昌平戦では、3トップのうちの2枚が相手のダブルボランチをケアする形を取り、自由な配給をさせなかった。その分、両WBの運動量や縦ズレのタイミングが重要になる守り方であったが、狙い通りに奪えていた場面も多かった。奪ってから攻撃までのイメージの共有ができ、攻撃の頻度が増えてくれば優勝も見えてきそうである。

○武蔵越生

1-3-4-3の布陣。守備時には1-5-2-3の布陣になり、相手のロングボールに対してチャレンジ&カバーを徹底して跳ね返す。中盤がセカンドボールを回収してカウンターからチャンスを出した。前3枚と後7枚はやや分業気味であるため、連動した守備から意図的にボール奪取する形はあまり見られない。しかし、3トップにボールが入るといずれもスピードやテクニックに長けており前線のコンビネーションは脅威であった。特にFW⑩渡辺にボールが渡ると攻撃にスイッチが入り、決定機を多く作り出した。CB④木村は、対人やヘディングが強くDFリーダーである。ボランチ⑥常木も予測とポジショニングが良くセカンドボールを回収していた。チームとしてコレクティブな守備ができれば攻撃の頻度を増やすことにつながりそうである。

○正智深谷

1-4-4-2の布陣。ビルドアップしている中でSBやボランチから2トップの動き出しに合わせて前線にボールを配給して起点を作る。FW⑪佐宗がくさびを受けFW⑨山本が良い距離感で関われた時には、スイッチが入り中央やサイドから効果的な攻撃が展開された。FW⑨やMF⑩松山は、駆け引きやテクニックに長けており、攻撃の中心である。守備は、コンパクトな3ラインを形成。CB④大塚を中心に強固なブロックを作って相手の攻撃を跳ね返した。相手が5バックの時には、攻撃の糸口を見つけ出せず苦戦していたように感じた。相手のどんなシステムに対してもコンセプトを共有し優位に進めることができれば優勝争いに加わるだけの力はあると感じた。

3. 大会全体を通して

第98回全国高校サッカー選手権大会でベスト8入りしたスタメンが数多く残る昌平に注目が集まる中、どのチームが優勝を手にするのか楽しみな大会であった。昌平や正智深谷は4バックを採用し、自分たちのスタイルを貫く戦いで勝ち上がった。一方で西武台や武蔵越生は、3バック（守備時に5バック）を採用することで相手の良さを消しながら自分たちの形に持ち込む戦いで勝ち上がった。いずれにしてもチームコンセプトを共有し、表現してきたチームが勝ち残った。攻撃陣にテクニックに秀でる中心選手がいることに加えて、各チームのCBに、対人が強くリーダーシップを発揮できる選手が多いのが印象的である。攻守に渡りストロングポイントのある選手を中心に組織的な戦術行動が取れるようになれば、さらなる成長が期待できる。新入大会の時期としては完成度の高いチームが多いように感じ、今後の戦いが楽しみである。これから始まる関東予選や総体予選、選手権予選に向けて各チームが今大会の戦いを分析し、改善していくことで埼玉県全体のレベルアップにつながる。来年度こそ埼玉県から全国制覇するチームが出ることを期待し結びとする。